

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 慶信会 放課後等デイサービス じょうなんキッズ松山ベース		
○保護者評価実施期間	令和 7年 3月 1日		～ 令和 7年 3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 1日		～ 令和 7年 3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人が障がい福祉サービスにおいて様々な機能を持っています。	一人ひとりの障がい特性に応じて、将来を見据えた支援やアドバイスを行っています。他サービスや関係機関とも連携し、必要と思われる情報をタイムリーに提供できるよう、意識して取り組んでいます。	就労系や生活介護、グループホーム等、卒業後のビジョンが明確になるよう、職員が体験実習等を行って知識を深めていきます。
2	アセスメントを重視しており、一人ひとりの強みを見つけて支援します。	様々な特性の中からも、得意なことや輝くものを見つけ出せるよう、アセスメントに時間をかけています。構造化等の環境面からアプローチすることを基本として、利用児の意思を踏まえながら支援を行います。	一人ひとりが過ごしやすい、様々な場面で意思決定の選択ができるよう、今後も環境整備に取り組んでいきます。
3	看護師を配置し、地域の医療的ケア対象児の受入れを行っています。	看護師2名を常勤で配置しており、医療的ケア対象児とご家族が安心して利用できる体制を整えています。医療と福祉が連携し、利用児の成長に応じた支援の提供と、特色のある活動展開ができるよう取り組んでいます。	次年度より看護師3名を常勤で配置し、新規の医療的ケア対象児の受入れと、サービスの質の向上に取り組めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のほかの子どもと活動する機会がない。	障がい特性により、環境の変化やコミュニケーションを課題としているため、地域の子どもの交流までは計画していません。しかし目標としては目指すべき所であるため、まずは事業所内での支援に取り組んでいます。	地域の学校に通われている利用児には、学校でのお友達との関わりのご様子から、必要な支援を行います。支援学校に通われている利用児には、居住地交流等の学校の取り組みのバックアップを協力して行います。
2	保護者同士の交流する機会が少なかった。	感染症の流行が収束しましたが、まだ以前のようにイベントを行うまでの体制を整えていないのが現状です。今年度はファミリー交流会は中止し、茶話会のみ開催でした。開催時期や内容も工夫が必要と感じています。	感染症の流行が収束後、生活様式が大きく変化しています。多くの方に参加して交流を持っていただくためにはどうすれば良いのか？事前アンケート等で要望を調査し、参加したいと思えるイベントを計画します。